

当時はまだあまり普及していなかったこと、そしてまた、平成27年5月に、本シリーズの平成21年6月号から平成27年3月号までの提言（70ヶ月分）を立派な冊子にまとめていただいたこと、そしてさらに、8年前の、あの未曾有の東日本大震災と凄惨な福島第一原発事故を憶いますと、10年という歳月にはやはり隔世の感があります。

急速に情報化したこの10年間は、大人にも明らかに何らかの影響や変化を及ぼしていると思います。それらの移り変わりが、子どもたちの健やかな成長にとって望ましい方向に動いていることを願う昨今ですが、そんなある日、20数年前のノートを整理していたところ、偶然、一枚のコピー用紙と再会しました。

その用紙には、「聞いてください」という詩が、どなたの手によるものか、端正な文字で認めてありました。

日本でも大人気の絵本「葉っぱのフレディ——いのちの旅——」の作者、レオ・バスカリア（アメリカの教育学者1924～1998）の著書「ラヴィング・イーチ・アザー」に掲載された作者不詳の詩で、教職員の生徒指導研修資料としてよく用いられていました。しかし、そのノートにこのコピー用紙が挟まれていた経緯や研修講座名などはすっかり記

憶の彼方に飛んでいました。

偶然とは、単なる偶然ではなく、必然中の必然であり、泣いても笑っても起こることは必ず何らかの意味を伴って起こっており、人々の行為や人生の大半を支配している何か……、です。したがって、いつも頭の中を「聴くこと」に対する期待やら悩みやら不安やらがよぎったり、渦巻いたりしていますので、人類史上間違いない、いかなる偉大な存在よりも多くの人々の、多くの悩みを解決した実績（？）を有するであろう、「時」という不可思議な力が、この詩と再会させた、と考えています。

聞いてください

作者不詳

私の話を聞いてくださいと頼むと  
あなたは助言を始めます  
私はそんなことを望んではいけないのです  
私の話を聞いてくださいと頼むと  
あなたはその理由について話し始めます  
申し訳ないとは思いつつ  
私は不愉快になってしまいます  
私の話を聞いてくださいと頼むと  
あなたはなんとかして私の悩みを  
解決しなければという気になります  
おかしなことにそれは私の気持ちに  
反するのです

祈ることに慰めを見出す人がいるのは

そのためでしょうか

神は無言だからです

助言したり調整したりしようとはしま

せん

神は聞くだけで悩みの解消は自分に任

せてくれます

だからあなたもどうか

黙って私の話を聞いてください

話しかかったら私の話が終わるまで

少しだけ待ってください

そうすれば私は必ず

あなたの話に耳を傾けます



嬉聞耳地藏尊

篤志の方のご寄付により、人々の苦を除き、人々に福利（楽）を与えることを願って建立された「嬉聞耳地藏尊」の、右の手のひらを右のふくよかな耳に添えた温顔を思い浮かべました。

「嬉聞耳地藏尊」の前で、何を感じ、何を思い、そして、何を願うかは人それぞれかと存じますが、老生は以前、建立された方々の、「求められてもいない指導や助言をせず、話が終わるまで親身に耳を傾けることの大切さと難しさ。」を説く声とともに、「子どもを守り、育てるために、大人はこぞってその実践者であれ。」という願いが聴こえるような気がしたことがあったのです。

三月は、児童・生徒が、分かれ（別れ道）に立ち、新たな自分の道を歩み始めるときであり、会者定離（出会った人はいつか必ず別れるという教え）のときです。

児童・生徒は、この時節、卒業や進学、進級、先生方の転退任など、幾つもの分かれと会者定離を体験しますが、一人一人が自分自身の旅立ちと別れにきちんと向き合い、また一回り大きく成長する春3月であってほしいと切に願っております。